

探 展

T A N

書を通じて集まった仲間、年に一度、ささやかな書展を開催して三年目、その年々にテーマとなる一字名の名称を設定しています。第一回展は『環展』、第二回は『原展』、本年は『探(TAN)展』としました。「探」は、深いところに手を入れて取ろうとする、「さぐる」・「さがす」・「たずねる」の意です。

前人未到の極地や高地、ジャングルや深海などの探検記を読むと胸が躍り、血が騒ぎます。二十世紀初頭、大谷光瑞、スウェン・ヘディン、オーレル・スタインらが、当時地図上で空白地帯であった中央アジアを探検し、書体の変遷の、いわばミッシングリングともいうべき多量の木簡簡牘残紙類を発見して、書を学ぶものに大きな啓示を与えてくれました。『探』の字を見ると真っ先にそのことが頭に浮かびます。未知のものを探求することは、何につけても心躍るし、楽しいものです。

「書とは何か」と問われても答えに窮しますが、「なぜ書を学ぶのか」と問われると「字が上手になりたいから」と即答する人がほとんどです。しかし、どうも書の本質はそこではないようです。「書は思念の芸術である」と言った先人がいます。思い、考え、探求し続けるところに本質が隠されているのでしょう。

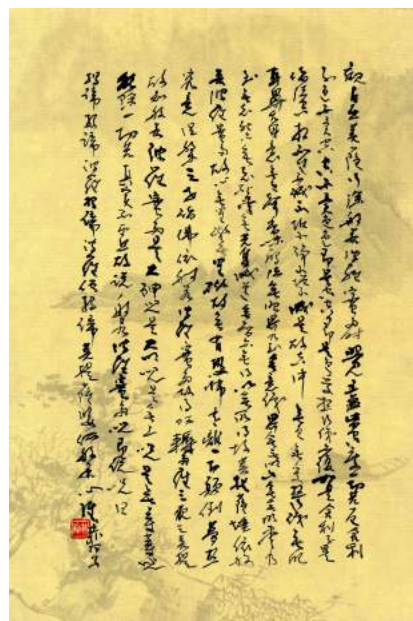
この一年、それぞれが、かくありなん、かくあるべしという理想と現実を踏まえた上でのビジョンを探し求めてきました。果たして『探』に値するかどうか、一人一人の胸に問い、識者の教正を乞う次第です。



米田井朴「幽探」



藤澤徐之「渺」



米田井朴「般若心経」



工藤天空「青の涅槃」



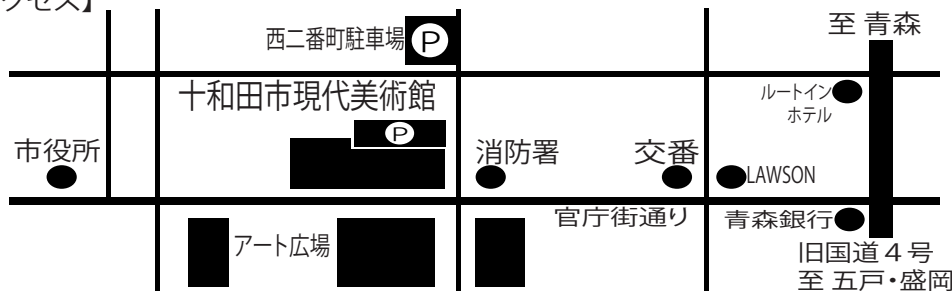
橋本恭子「凡事徹底」



鳥山駿「不如学」

お問い合わせ
書文化研究 寄遠會
〒039-0501
青森県三戸郡南部町上名久井字伊勢堂下3 3
TEL:070-4024-0838

【アクセス】



美術館裏の駐車場が満車の場合は美術館から北に約100mの「西二番町駐車場」に駐車可。(会場にて無料券発行)